

新シニアのための Market Eye (2019年2月22日)

2月21日終値

NY ダウ	ナスダック	S&P500	シカゴ日経先物	米 10 年債	NY原油先物
25,850.63 (-103.81)	7,459.71 (-29.36)	2,774.88 (-9.82)	21,360 円 ↓	2.691% ↑	56.96 (-0.20)
Vix 指数	USD Index	独 Dax	独 10 年債	英 FTSE	英 10 年債
14.46 (+0.44)	96.62 (+ 0.05)	11,423.28 (+21.31)	0.125% ↑	7,167.39 (-61.23)	1.200% ↑

21 日発表の主要経済指標	前回	予想	結果
米 新規失業保険申請件数	23.9 万件	22.8 万件	21.6 万件
米 2 月フィラデルフィア連銀製造業景況指数	17.0	14.0	-4.1
米 12 月耐久財受注 (前月比)	1.0%	1.7%	1.2%
米 12 月耐久財受注 (除く輸送用機器前月比)	-0.2%	0.3%	0.1%
米 2 月製造業 PMI	54.9	54.8	53.7
米 2 月サービス業 PMI	54.2	54.3	56.2
米 1 月中古住宅販売件数	500 万戸	500 万戸	494 万戸
米 1 月中古住宅販売件数 (前月比)	-4.0%	0.8%	-1.2%
米 1 月景気先行指数 (前月比)	-0.1%	0.1%	-0.1%

昨夜 21 日、17 時以降のドル円 15 分足チャート



◇本日 2 月 22 日の注目材料

- ・ドル円は 111 円台を回復できるか注目。
- ・7 時 30 分から豪中銀ロウ総裁の議会証言に対する豪ドルの反応に注目。
また、豪東岸に接近の大型台風の経済への影響にも注意が必要
- ・独 10-12 月期 GDP 改訂値、独 1 月 IFO 景況指数のほか、深夜 0 時 30 分からのドラギ ECB 総裁の発言に対するユーロの動向に注目。
- ・再来週 3 月 6 日のトルコ中銀政策委員会に向けて 16 時 00 分発表のトルコ 2 月の景況感指数や設備稼働率に対するトルコ円の反応に注目
- ・3 月 7 日のカナダ中銀政策委員会に向けて今晚のカナダ小売売上高に注目
- ・週末のポジション調整のほか、深夜 1 時 00 分に公表される FED 金融政策報告および複数の FRB 要人の発言に対する米債券市場の反応に注目

◇【NY 株式市場】 **ダウ:25,850.63(-103.81)** **ナスダック 7,459.71(-29.36)**

- ①**昨夜 21 日の NY 株式市場**は、予想を下回った経済指標を受けて景気先行きへの減速懸念から景気敏感株を中心に売り優勢となり主要三指数揃って下落。NY ダウは取引序盤の 15 ドル安から終盤にかけて 192 ドル安まで下げ幅を拡大するなど終日マイナス圏での軟調推移に。米中通商交渉妥結への期待感が相場を支えたものの 103 ドル安で取引を終了。商業やサービス部門が上昇した一方、エネルギーや自動車関連銘柄が下落。
- ②**昨夜 21 日のシカゴ日経平均先物**は前日比 45 円安の 21,360 円で取引終了。高値は 21,545 円、安値は 21,295 円。21 日の日経平均終値比 104 円安。
- ③**昨日 21 日の日経平均株価**は、小幅ながら 32 円高と 4 日続伸の 21,464 円で取引を終了。午前中こそ 21,500 円の節目が意識され先物主導で 112 円安の 21,318 円まで下落したものの、午後に米中通商交渉について「米中の交渉担当者が主要 6 分野に及ぶ覚書を作成」との報道を好感し、121 円高の 21,553 円へ反発。しかし、21,500 円からの利益確定売りに上げ幅を縮小して取引を終了。

前日のメイ英首相とユンケル欧州委員長との会談後にスペイン外相が英離脱協定修正案で合意に達するとの楽観的な見通しを背景にポンドが 1.3108 ドルへ上昇したほか、ユーロも 1.1371 ドルへ上昇。しかし、FOMC 議事要旨で複数の委員から年内の利上げの可能性のほか、FRB の保有資産圧縮の年内終了で概ね一致との内容を受けたドル買い戻しの流れを受けた昨日の東京市場では朝方の 110 円 59 銭を下値に米中通商交渉について主要 6 分野について覚書を作成中との報道を好感し日経平均株価が 21,553 円まで上昇するなどリスク選好の動きを背景に 110 円 86 銭まで上昇。その後、日経平均株価は上げ幅を縮小したものの米中通商交渉への楽観的な見方を背景に 110 円 70 銭台を中心に底堅い値動きを継続。

一方、豪ドル円は 1 月雇用統計が予想を上回ったことを好感し 79 円 81 銭まで上昇。しかし、豪大手銀行が年内 2 回の利下げの予想を公表したほか、午後には中国・大連が豪からの石炭の輸入を禁ずるとの報道を契機に 78 円 44 銭へ一段安に。その後、中国外務省から豪からの石炭禁止の報道を否定するコメントを受け豪ドル円は再度 79 円台を回復するなどクロス円の上昇もドル円の下値支援に。

ユーロは、来週の欧州委員会でイタリア政府の長期成長計画は失敗との報告書が示されるとの観測を受け、昨年 12 月のイタリア政府の予算案を巡る欧州委員会との対立が想起され、イタリア政府と欧州委員会との対立への警戒感から欧州市場序盤にユーロが 1.1321 ドルへ下落したほか、ユーロ円も 125 円 42 銭へ反落。一方、独・仏・ユーロ圏の PMI にサービス業や総合指数に前月からの改善したことが好感されユーロは再度 1.1363 ドル、ユーロ円も 125 円 86 銭へ反発するなど明確な方向感は見られず。

米新規失業保険申請件数は改善した一方、12 月耐久財受注や 2 月フィラデルフィア連銀製造業景況指数は予想を下回る結果に。特にフィラデルフィア連銀製造業景況指数は -4.1 と予想 (+14.0、前月 17.0) を大幅に下回り、2016 年 5 月以来 2 年半ぶりのマイナスとなる中、内訳の新規受注が 1 月の 21.3 から 2 月は -2.4 へ

大幅低下するなど冴えない結果にドル円は 110 円 56 銭まで下落した一方、ユーロは 1.1367 ドルへ、ポンドは 1.3095 ドルへ上昇。

また、弱い経済指標に対する米国経済の先行き下振れへの警戒感を背景に NY ダウは序盤の 15 ドル安から取引終盤にかけて下げ幅を拡大するなど終日軟調に推移した一方、米 10 年債利回りが 2.69%台へ上昇するなど長期金利の上昇がドル円の下値支援となり、ドル円は 110 円 84 銭へ反発。

また英 EU 離脱交渉を巡り、3 月 29 日の離脱期限延長の観測もポンド買いを誘ったものの、EU 側の離脱交渉官から離脱協定修正案を巡る協議の行き止まりに言及する悲観的な発言を背景に 1.3027 ドルへ下落。

またユーロもユーロ圏の景況感に対する先行き懸念のほか、ECB の金融政策正常化が当初見込まれていた今夏以降から一段と後退するとの観測もユーロの重石となりユーロは 1.1323 ドルへ下落したこともドルの支援材料に。

ドル円は 110 円 70 銭、ユーロは 1.1336 ドル、ユーロ円は 125 円 48 銭で昨晚の NY 市場の取引を終了。

自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。